



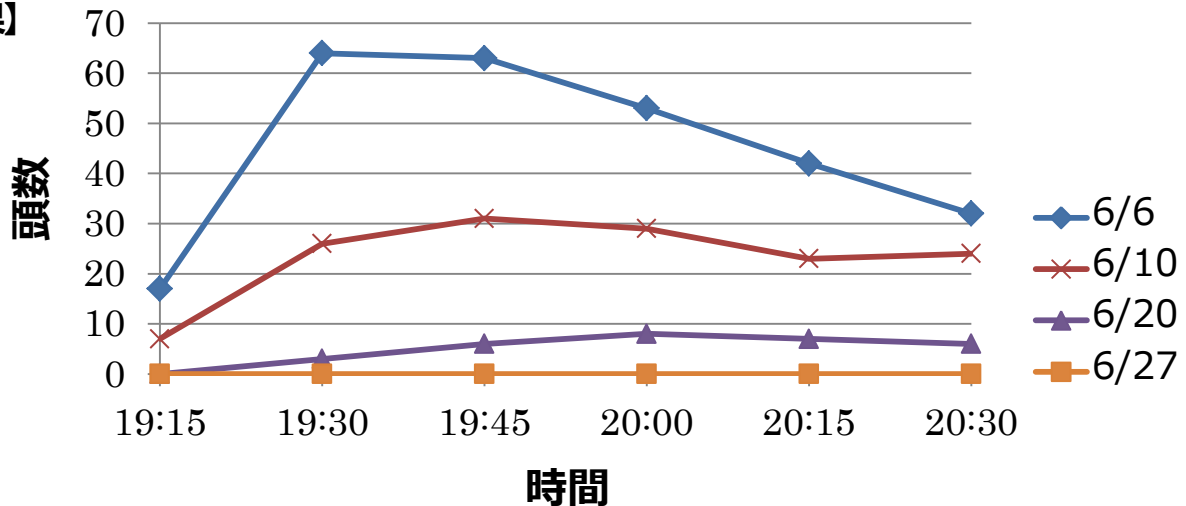
オオカマキリ

ホタル調査 (2015) 瀧本宏昭

【調査地】 大道中学校 【調査期間】 2015年6月6日～6月27日

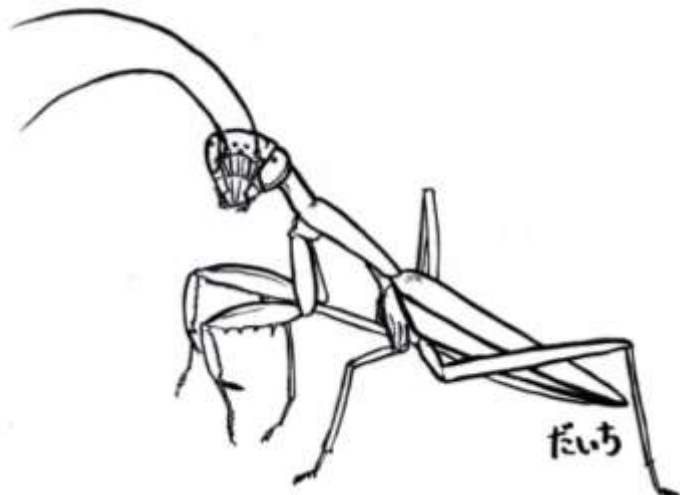
【調査担当者】 飯村・瀧本・金子

【結果】



【まとめ】 今年は、ピークが例年より早かったので、一番数が多い日に調査をすることができてラッキーでした。ただ、少し物足りない数だったのは残念。個体数飛躍のためのかがみ込みであることを願います。

(編集部注:私子どもだった頃は、お休みします。)



オオカマキリ (大蠟螂)

英名: *Tenodera aridifolia*

体長: ♂ 68 - 90 mm

♀ 75 - 95 mm

解説: 日本最大のカマキリ。夏の終わりごろから冬の始め頃まで成虫が見られ、卵で冬を越します。

主な生活場所は林の縁や草地。性格は極めて獰猛で、共食いは茶飯事です。よく似た種類にチョウセンカマキリがありますが、こちらとは後ろ羽の色で見分け、色が濃いほうがオオカマキリ、薄いのがチョウセンカマキリです。

熊井 健

会員のつどい

【活動報告1】

6月13日(土) 18:00～ 大道コミュニティハウス

山田陽治

6/13(土) 18:00から、ふるさと侍従川に親しむ会の会員のつどいが、大道コミュニティハウスで行われました。

30人あまりの会員が集い、平成26年度の活動や今年度の活動計画などが発表されました。

事務局スタッフの入院などいろいろありましたが、侍従会の今年の方針性などの共有ができた集いとなりました。

ご参加いただいた皆さま、お疲れ様でした。今年度一年よろしく申し上げます。



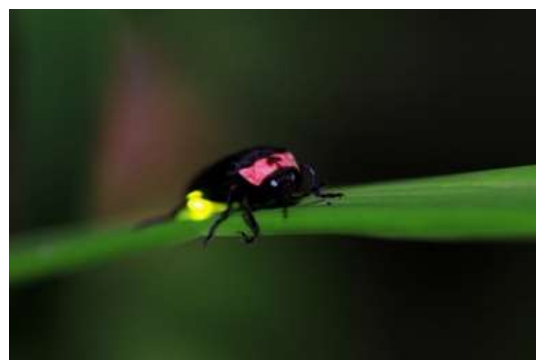
ホタル観察会

【活動報告2】

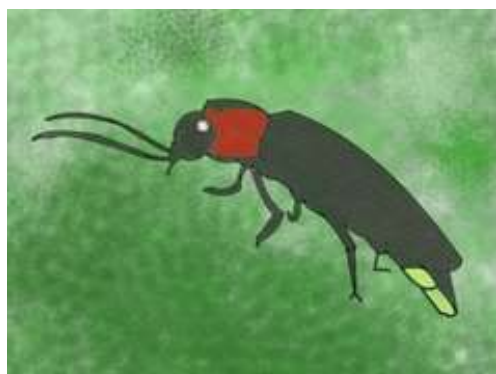
6月13日(土) 19:30～ 大道中学校

服部杏奈

6月13日(土)、大道中学校で行われたホタル観察会に参加してきました。蒸し暑いなか、たくさんの方がホタルを一目見ようと大道中学校の校庭に集まりました。日が沈むとホタルが一匹、二匹と飛び始め、光る度に、わあっと歓声があがっていました。



ホタルの数は去年と比べると少なく、見に来た人々の方が圧倒的に多かったと思います。今年は春を飛び越していきなり夏かと思わせるような暑い日が続いたかと思えば急に気温が下がり肌寒い日が続くなど、ホタルにとっては厳しい環境だったのではまいかと思えます。三溪園にホタルを見に行った知人の話によると、例年よりも早く見頃を迎え、数も少なかったそうです。この事が来年の個体数にも影響してくるかもしれません。



イラスト：服部杏奈

ホタルのオスとメスを見分ける方法や、幼虫の時期は何を食べているのか、どんな姿をしているのか等、ホタルに関する色々なお話を参加者の方々にしました。目まぐるしく変化していく環境と戦うホタルに私達は何ができるのか、そんな事を考えながら観察会に参加してもらえたら嬉しいなと思います。観察会を通して、ホタルに限らず生き物を大切にする心が広まってほしいです。

今年の異常気象に負けずに、来年また元気な姿を見せてくれるといいですね！

6月定例クリーンアップ

【活動報告3】

6月28日(日) 9:00~11:30 曇り 29℃

朝比奈橋~大道橋~大道東橋(清掃)

細川一雄

参加者:長野政治、西澤博厚、角田繁、関場俊子、関場れん、関場さら、林正隆、林友美、林叶恵(小3)、林正朗(小1)、今井康祥、今井幸子、今井翔太(小4)、今井はるか(小1)、山田陽治、飯村優介、松本佑樹、松本もも子、前川詩水佳、内山美優、寺西たか子、深沢大地、小野田幸介(中1)、細川一雄(計26名)

今年は平年並みの6月8日に関東地方の梅雨入り宣言が出されましたが、梅雨入りしたとは思えない雨の少ない日が続いていました。さらに6月とは思えない連日29℃という暑さの中作業を行いました。今回は大人グループは体調不良などで参加者が半分になってしまいましたが、その代わり子どもたちや家族参加の方が沢山参加してくれて総勢24名という大人数になりました。

いつもの通り、子どもたちは下流へ、大人たちは上流に別れて作業を分担しました。今月は6月15日に大道小学校の全校生徒が侍従川清掃をしてくれましたので、余りゴミは無いと思っていましたが、予想外の8袋も回収されました。



朝比奈橋下流の清掃風景



大道橋の下。6月24日に侍従川が赤く染まった原因となった赤土の沈殿物
(青木橋上流の支流から流れてきたと思われる)



青木橋下流の清掃風景
草が大分伸びている



回収した8袋分のゴミ。
三角ポール用の底板(ゴム製)が2個と傘

トピックス その1

6/9(火) 高舟台小学校5年生に侍従川のレクチャー

6/15(月) 大道小学校侍従川クリーンアップ

6/17(水) 高舟台小学校5年生が侍従川中流域探検

6/20(土) 日本水環境学会関東支部より水環境奨励賞を受賞

6/23(火) 六浦小学校3年生が侍従川探検

7/3(金) 六浦小学校3年生に侍従川のレクチャー

7/8(水) 金沢区教員理科学研究会で侍従川のレクチャー(雨天により実地研修は中止)

7月定例クリーンアップ

【活動報告4】

7月26日(日) 9:30~11:00 晴れ 32℃

朝比奈橋~大道橋~大道東橋(清掃)

細川一雄

参加者:長野政治、西澤博厚、角田繁、村田章夫、外川忠志、高橋のりみ(横浜市議員)、寺尾勝廣、今井康祥、今井翔太(小4)、小川和美、小川翔太(小4)、海保宏美、海保結登(小2)、海老明子、海老理乃(小1)、海老紗理(4才)、渡辺あや、渡辺蓮(小2)、渡辺鳳(小2)、鈴木真理子、鈴木尚子、鈴木裕太(小1)、鈴木悠史(3才)、山田陽治、飯村優介、佐野真吾、金子英司、深沢大地、金澤喜乃(小5)、内山美優(小4)、浦なつこ(小4)、山本麻夏(小3)、細川一雄(計45名)

毎日真夏日が続いている酷暑の中、多くの人たちが集まってくれました。また、高橋のりみ市議会議員が久しぶりに参加してくれました。市議会が休みになる酷暑の8月と厳寒の12月頃が参加できる日程とのこと。会としては公私共に多忙な中、参加してくれるだけでもありがたいです。

いつもの通り、子どもたちは下流へ、大人たちは上流に別れて作業を分担しました。場所を移動するだけで玉の汗が吹き出てきます。持っていったタオルが作業が始まる前にびしょりです。川に降りて伸びすぎた草を切り、セイタカアワダチソウを引っこ抜きながらゴミを拾います。夏の日差しは草に良いのか先月それほど伸びていなかった草がびっしりと茂っています。

特に気になる草を錆びたカマで切りながら川を下り、途中青木橋の下で休憩を取ります。暑さが体力を奪ってしまい、中々作業が再開できません。来月は作業を始める前にも冷たい飲料を用意したほうが良いと思いながら大道橋まで下ってきました。

子どもたちに早く冷たい飲み物を持っていこうと、大道橋で上に上がり、冷たい飲み物とお菓子を買ってちとせ園に持っていきました。軽く喉を潤おした後、山田さん達は水族館を作り、生き物の解説をして解散しました。



里野橋下流の清掃風景



完全装備で作業をする高橋のりみ市議会議員



地藏前橋下流の清掃風景



回収した8袋分のゴミ

今年も侍従会の恒例行事の一つジュニアキャンプが8月8、9日の2日間に渡って開催されました。スタッフとしては2回目、参加者としても幾度となく参加しているこのイベントは自分にとって、ああ今年も夏が来たなとおもわせるものです。

今年の参加者は23名、参加者がそろったところで、まずはアイスブレイク。山田さんが出す様々なお題に対してみんなで答えていきお互いのことを知ります。まさに氷が溶けるようにみんなの緊張が解けたところでテントの設営です。しかしこれがまた難題だらけで(笑)きちんとそろってないテントセットに曲がったペグ、打っているうちに先が壊れるハンマー、立ったと思ったら飛ばされるテントと問題が次々出てきます。それでも、みんなの工夫で何とか夜過ごす場所の確保はできました。



昼食を済ませるとついに海へと出陣です。研修センターでライフジャケットを借り海につくとまずはライフジャケットの正しい着方を学びます。安全は何より大事ですからね。次はお待ちかね、シュノーケルです。初めての子は山田さんに習いながら、何度もやったことある子は生き物を求めてどんどん先へと。この日はあまり水がきれいではなかったのですが、それでもみんな潜ってナマコを取ったりオヤビッチャやシマダイ、ヨウジウオを見つけたりと次々と生き物を発見していききました。

海からキャンプサイトに戻ると何ともいい匂いがしてきます、なんとサイトに残っていたスタッフの方が先に夕食の準備を始めてくれていたのです。夕飯のメニューは焼き肉丼、子どももお皿の準備をしたり、野菜や薬味を切ったりとお手伝いをしました。みんなの協力もありとてもおいしい夕食になりました。

夕食の片づけと入浴後は懐中電灯片手に夜の野島探検へ、階段から野島の展望台までのぼり夜景を見ます。帰りは坂から降り、コンビニに立ち寄りアイスを買って海岸につくと一息つきました。

子どもが海をのぞき込んでいる内に「あっ、イカがいる」と言い出しました。良く探すと確かに小さなイカが泳いでいます。良くもこんな小さいのを見つけたものだと感心しました。砂浜の近くまで歩いていき時刻は8時半この時期に連日行われる八景島の花火を見ました。これで1日目は終了です。とは言ってもみんなすぐには寝ないのですがね(笑)



2日目、朝食はサンドイッチバイキングです。眠い目をこすりながらみんなで準備をしました。朝食の片づけが終わると早速海へと繰り出します。今日はサーフボードやカヤックを持ち出しそれで遊んでもいいし、各人自由に遊んでもいいことになりました。子どもたちはあれだけ夜遅くまで騒いでいたのにそんな感じを露ほども見せず海を楽しんでいるようでした。

海から戻ると、昼食です、サイト組のスタッフが準備をしてくれていたそうめんをすすり片づけが済んだら撤収作業に移ります。みんなで協力してテントをたたみ、サイトが来た時と同じようになるとみんなでお疲れ〜とアイスを食べ、最後に山田さんが締めると今年のジュニアキャンプは幕を閉じたのでした。



ジュニアキャンプの感想

- ◎今回のキャンプでサーフボードやカヌーが楽しかったです。サーフボードでは、キャンプに来てたみんなと一緒に上に立ったり、飛び込んだりできてよかったです。(重田綾優)
- ◎今回私はそこまで海にはいれなかつたけどスタッフのみなさんの協力によりとても楽しい時間が過ごせました。海で生き物を取ることもできよかったです。キャンプ中に花火を見れたのもとても嬉しかったです。来ていたみんなと楽しくできてよかったです。(重田優香)

8月定例クリーンアップ

【活動報告6】

8月23日(日) 9:30~11:00 晴れ 30℃

朝比奈橋~大道橋~大道東橋(清掃)

細川一雄

参加者：西澤博厚、長野政治、角田繁、村田章夫、石渡博、高橋伊寿美、高橋胡代里、鳥越昌三、鳥越龍、関場俊子、関場さら、小川翔太、小川和美、山田陽治、飯村優介、金子英司、深沢大地、細川一雄(計15名)

大型台風15号、16号が日本に近づいてきています。アカトンボが飛び始めたり、ツクツクボウシが鳴き始めた8月の後半、やっと暑い夏が終わりに向かう気配を見せ始めました。しかし、当日はまだ30度の高温でした。



回収した土嚢袋6袋分のゴミ

いつもの通り、子どもたちは下流へ、大人たちは上流に別れて作業を分担しました。地蔵前橋から川に降りて伸びすぎた草を切り、セイタカアワダチソウを引っっこ抜きながらゴミを拾います。先日の台風による大雨の為ゴミが下流に流されたようで、今回は余りゴミが見当たりませんでした。横浜屋の前の部分に1m以上に伸びたセイタカアワダチソウがたくさん群生していましたので、1本1本引っっこ抜くとクズの蔦が絡まっています中々抜けません。悪戦苦闘して何とか引っっこ抜きましたが、現在の戦力では到底全部は無理ですので、途中で作業を中止しました。



8月17日大雨の後の
大道橋下流
水嵩が大分上がり、流
れも速くなっています

これから秋に向かい草が乾燥してきますので、上流部は区役所をお願いして業者に草を刈ってもらおうと思います。ちとせ園に着くと下流部の子どもたちはすでに上がっていて、捕まえた生き物を水槽に入れていましたので、横浜屋で冷たい飲み物とお菓子を買って皆で喉を潤おした後解散しました。

ヤンマとり大会 (瀬上さとやまもりの会との共催)

【活動報告7】

8月29日(土) 16:30~18:30

金子英司

8月29日、日も落ちかけた瀬上に網を持った30ほどの人影が現れた。今年も何も無い空へと無数の網が虚しくも大きく振られる季節がやってきた。そうである、いくたの人間の野望を阻んできたトンボ界のエースプリンター—その名はマルタンヤンマ。やつを今年こそは捕獲するべく一同は介したのである。



さのしんの企画で毎年恒例ともなっているヤンマとり大会、今年は侍従会と瀬上さとやまもりの会との共催で行われた。開催場所である瀬上市民の森では様々な種類のトンボが見られ、その名の通り腰が括れたコシボソヤンマに大きな体をしたヤブヤンマ、体色が美しいミルンヤンマ、そして、コバルト—ブルーの瞳を持ったマルタンヤンマ。このマルタンヤンマのオスは時速70kmで飛ぶともいわれその捕獲は困難を極めるのだ。この大会の最大の目標であるマルタンヤンマの捕獲を今年には達成できるのだろうか。



当日は曇り模様でトンボが飛ぶ好条件とは言えないあいにくの天気であった。それでも、主な捕獲ポイントである田んぼとその先の開けた場所に向かうまでにコシボソヤンマが捕獲された。期待を胸にみんなで網を構える。あれはマルタンだとわかる影を何度も見つけるが高すぎて届かなかったり、網を構えていない時に横をすり抜けて行ったりとなかなか成果は上がらない。

コウモリが飛び始め、トンボそっちのけでコウモリに網を振り回す子どもたち。さのしんが「コウモリ捕まえたら MVP だね」と冗談交じりに話す中、大ちゃんが大きく網を振り「おっ、に入った」と一言、みんなが一斉に駆け寄り、期待が高まる。マルタンヤンマではなかったが、見事にミルンヤンマを捕らえた。その直後今度はみっつーがミルンヤンマを捕らえることに成功した。

日がほとんど落ちたこともあり、今度は帰りながらトンボを探した。すると田んぼに差し掛かったあたりでさのしんの振った網に何かが入ったようだ。マルタンではなくヤブヤンマだったもののまだ成果を上げきれていなかったさのしんは「これで挽回したな～」と言い出したのだ。

しかし、その直後遠くから「パパがコウモリ捕まえた」とたつ君の大きな声が聞こえてきた。みんなの興味は一気にそちらへと傾いた。なんと本当にコウモリが捕らえられていたのだ。さらに驚くべくことに鳥越パパは2匹目の捕獲にも成功している。とまあ、あっさりと鳥越パパに MVP を持っていかれたさのしんだったのだ。

今年もマルタンヤンマを捕獲することは叶わなかったがコウモリという面白いものが捕らえられたヤンマとり大会になった。来年こそはマルタンヤンマを捕まえ、ヤンマとり大会の MVP を目指そう。



侍従川に親しむ会の皆様、こんにちは。大道小学校・環境担当の玉利です。夏休み中は、草木が繁茂し、トンボたちが田んぼやトンボ池に卵を産みに来る姿が見られました。オス同士が縄張り争いをする様子は迫力があり、子どもたちは感激していました。また、生き物が増えたことで、カワセミがやってくるが多くなりました。木の陰から魚の様子を伺い、一気に水に飛び込む姿は圧巻です。トンボ池で見られる生き物の様子は「素晴らしい！」の一言に尽きます。ぜひトンボ池の様子を見に来てください。お待ちしております。

トンボ池のエコアップ【6月27日（土）】

6月27日（土）にトンボ池のエコアップを行いました。あいにくの雨で、「中止」としましたが、9時ごろになると曇り模様となったため、大道村のメンバーと大道小の職員とでエコアップを行いました。今回のエコアップテーマは「トンボ池に草木を繁茂させよう！」です。水草や木々をトンボ池の周りに繁茂させるための工夫を行いました。

まず、トンボ池の陸から周囲50cmほど土を盛り浅瀬をつくりました。土をただ盛るだけだと流れてしまうので、杭と板を打ち付け、土止めを設けました。そして、その土盛りの場所にアサザやコナギを植え付けました。杭はハンマーで池の底にしっかりと打ち付けました。なかなか池の底に打ち付けられなかったため、地域の方と協力して打ち付けました。



塀の取り付け作業

次に、伸びきっている草木の手入れを行いました。たくさんの植物が成長しているため、手入れも一苦勞でしたが、昨年度まで大道小の職員だった伊藤先生とトンボ池の発案者尾上先生の応援もあり、作業がどんどん進みました。



全員で草の手入れ



伊藤先生



尾上先生



現在のトンボ池

中止だったのにも関わらず、たくさんの方の応援があつて成功した今年度のトンボ池のエコアップ。今では、アサザ、スイレンが花を咲かせ、草木も繁茂しています。そのため、アオミドロの発生も昨年度よりは落ち着いています。今後も水草を定期的に移動させて、トンボ池のエコアップに取り組んでいきます。

佐野真吾が語る侍従会の思い出

～侍従川流域の七不思議 前編～

侍従川流域はご存知の通り、横浜市・鎌倉市・逗子市・横須賀市という4市の境目に位置しています。また、流域の森は池子米軍基地や鎌倉、円海山とも隣接する広大な朝比奈の森があり、他にも大道中学校の裏山や六浦町のお伊勢山など緑地に囲まれています。

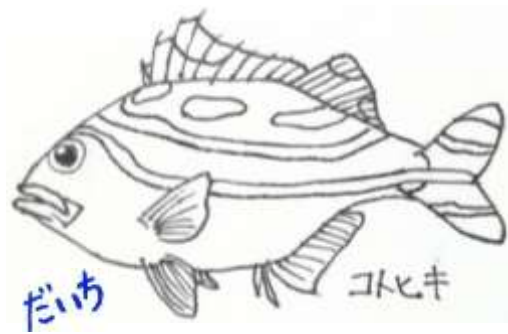
私は一時期そんな侍従川流域をくまなく歩こうと探検した時期がありました。今回はその時、聞いたり見たりした侍従川流域に伝わる都市伝説や隠された秘密のスポットを佐野真吾が選ぶ七不思議としてご紹介したいと思います。

侍従川流域にあった伝説のペットショップ

侍従川流域にはかつていくつかのペットショップがありました。その中でも名店として名高かったのが六浦の谷戸田と呼ばれる地域にあった「グッピーハウス」と、大道にあった「メダカの学校」でしょう。

六浦にあったグッピーハウスは1990年代後半にオープンし、2005年頃に閉店してしまいました。店内には熱帯魚が充実し、外の生簀にはカメや淡水魚が飼われていました。また、90年代のクワガタブーム時には、先取りと言わんばかりにオオクワガタの販売および累代飼育を始め、飼育マニュアルなどを無料配布する程でした。

次に大道の名店「メダカの学校」ですが、ここは私が生まれる前からあったそうで、大道の通り沿いにあり、地域密着型のペットショップでした。店内に入ると哺乳類から爬虫類、両生類、魚類、甲殻類、昆虫など多種多様な種が販売されていました。また店内には大きなリクガメと犬よりも大きなネコが闊歩しており来店する人を驚かせる名店でした。「メダカの学校」は大変残念なことに数年前に閉店してしまいました。今では伝説の名店と呼ばれています。



幻のキイロサナエの記録

キイロサナエとはサナエトンボの1種で、かつては神奈川県で絶滅したと考えられていました（現在は足柄平野で再発見されましたが）。しかしそんなキイロサナエがかつて侍従川流域でも採れていることをひよんなきっかけから知りました。

その記録は木下隆方さんという方が1994年に「羽化」という報告書に発表したもので、この報告書の記述には1969年に朝比奈町朝比奈峠付近で1



♀採集とありました。かなり古い記録ですが驚きでした。

そんなある時、2014年4月27日におこなわれた侍従会の調査でキイロサナエの幼虫に酷似した抜け殻が発見されたのです。腹部の先のほうが細くなり、キイロサナエにそっくりでした。そこで私は二人のトンボ専門家にみてもらうことにしました。すると結果はヤマサナエ（キイロサナエに近い種で、侍従川では普通に見られる）の奇形ではないかとのことでした。見つかった抜け殻は残念ながらキイロサナエではありませんでした。

横浜市絶滅種のアカハライモリは侍従川に残っている！？

アカハライモリは、かつては何処にでもいた両生類だと聞きます。しかし、現在は各地で少なくなっており、神奈川県では絶滅危惧種、横浜市では絶滅種であると考えられています。

そんなアカハライモリが侍従会の廣瀬さん宅の池に残っていることを聞いた時は耳を疑いました。しかし、実際にお邪魔させていただくと小さな池に本当にいるではありませんか。廣瀬さんのお家には大きな土地があり、その中で昔から人に脅かされることなく生き残ってきたのでしょうか。



ひっそりとある謎の社

私が侍従川流域を探検していた時に古い小さな社を見つけたことがありました。場所は大道小学校の裏山で、草を掻き分けないと入り込めないような藪の中にありました。大道小学校の裏山は朝比奈との境目にある細長い緑地です。

社は神様が祀られていたり降臨したり地域によって様々な意味合いがあるようですが、私が見つけた社は本当に小さく、森の小さな神様がこっそり訪れそうな感じでした。しかし、社はすでにボロボロで、長らく手入れがされてこなかったことが伺えました。

それから少しして、私は再び社を訪れました。すると台風などの影響でしょうか。社は崩れていたのです。しかし、驚くことにその横には新しい社が建てられペットボトルが供えられていたのです。きっと誰かが社を作りなおしてお供えしたのでしょうか。侍従川流域には知られざる地域信仰が今もなお残っているのかもしれない。



次回は「秘密トンネルの謎」、「3つの幻の池」、「本当にあった(?) 怖い話」をご紹介します。

『佐野真吾が語る侍従会の思い出』 つづく

朝夷奈の森通信 ～森の忍者より～ 飯村優介

今年も季節の進行が早く、5月の暑さでゲンジボタルの出現は5月17日。大道中のピークは5月30日から6月3日の間でした。

6月と7月は原流の森でノウサギと出会う好運がありました。風が強くササや木の葉がさらさら鳴るなかでした。

6月に2週間オーストリア滞在があり、森で木イチゴやキノコ観察をたのしめました。街のそばで、大きなノウサギがいたり、山岳でカモシカがそばをかけたり、いい旅になりました。

帰国するとタマゴタケやヤマドリタケモドキが豊作でした。夏は暑さと日照りが厳しくなりましたが、急に早い秋雨の入り。

秋キノコはまたにぎわうでしょうか。



ウィーン森のヒラタケ



朝比奈のヤマドリタケモドキ

《生き物発見記録》

5/3 1(日) 朝比奈小学校でヤマカガシを確認 (佐野) ①

6/6(土) 朝比奈小学校で国内外来種(川崎産)のヘイケボタルの繁殖を確認 (佐野) ②

※昨年は下流で幼虫も見つかっているので、広まってしまうことが危険視されます。

6/13(土) 朝比奈産のヘイケボタル♂9♀5 確認 (佐野)

※♂2♀2を採集し採卵に成功し、現在多数の幼虫を飼育中です。

7/2 2(水) 侍従川明戸橋付近でマルタウグイを数年ぶりに確認 (観察会参加者) ③

7/2 6(日) 侍従川二の橋付近でマツカサガイの殻を確認 (山田) ④

※侍従川これまで記録がないので国内外来種だと思われる。



侍従川定例調査報告 学生部

7月22日(水) 横浜みなみ生活クラブ観察会にて

【調査範囲】 二の橋～明戸橋

【採集した生き物】 チチブ (30)、ウキゴリ成魚 (6)、ウキゴリ稚魚 (50以上)、
 ビリンゴ (50以上)、マハゼ (1)、ウロハゼ (1)、ゴクラクハゼ (1)、ボラ (3)、
 シマヨシノボリ (2)、マルタウグイ (1)、
 ミゾレヌマエビ (1)、コオニヤンマ幼虫 (1)、
 ヤマサナエ幼虫 (1)、ハグロトンボ成虫 (36)、
 ハグロトンボ幼虫 (1)、ガガンボ幼虫 (2)、
 クロベンケイガニ (3)、カワニナ (11)



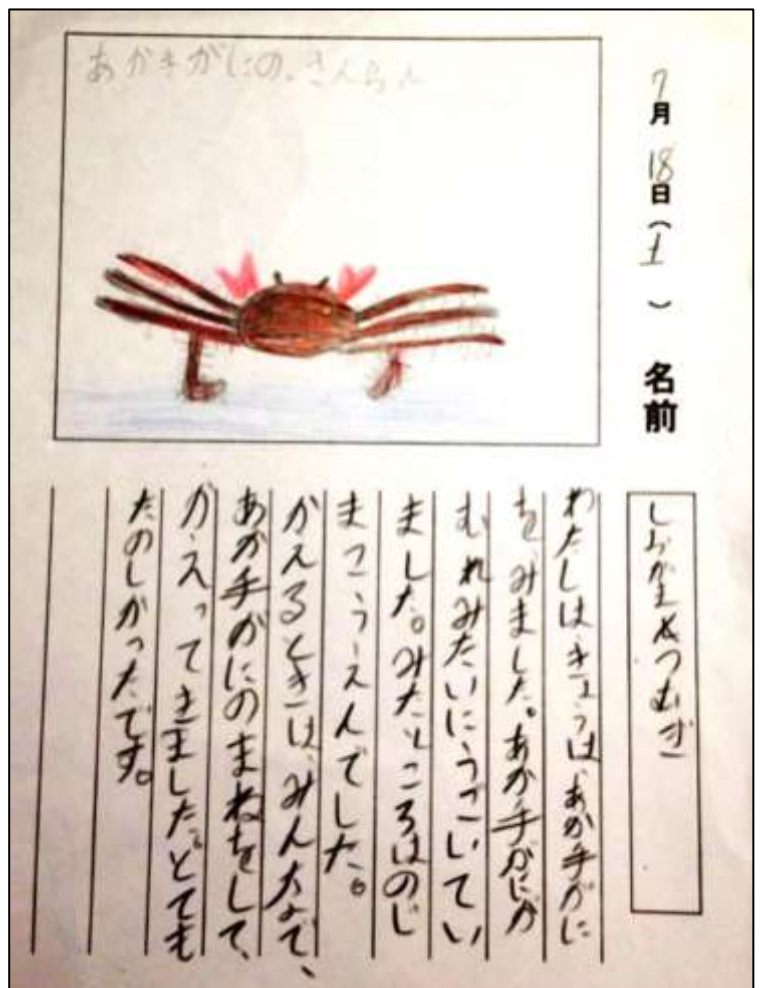
『アカテガニの産卵 (放仔)』 深沢大地

7月18日(土) 18時～20時半頃

アカテガニは、普段は主に山の中に住んでるカニですが、夏の大潮の夜にぞろぞろ海におりてきてゾエア幼生をばらまく放仔をします。

この日は急遽行くことが決まったので人があまり集まらず、少人数で観察してきました。場所は侍従川流域の野島公園です。

放仔を確認出来たアカテガニは10匹程でした。他にもアシハラガニの放仔も同じ場所で観察出来ました。





虫のきょういく座談会

～大船飲み会～



参加者：伊藤・河本・瀧本・佐野

7月中旬の日曜日、大船駅には4人の男たちが集まっていた。集まったのは侍従会を長きに渡って支え続けてくださった大道小学校元教員の伊藤氏、ダボハゼ通信の編集委員長の河本氏、学生部副リーダーで観察の森レンジャーの瀧本氏、そして佐野である。この日は久しぶりに飲みに行こうということで集まったのである。休日に何か悲しくて男だけで集まり飲みに行かなくてはいけないのかとツッコみたい方もいるかもしれない。しかし実はこの集いはずいぶん前からちよくちよく行われてきた。そしてたまには侍従会が誇る美しいお母様方や大学生も参加してくださっているので、普段は怪しまれるほどむさ苦しい集会ではないことを強調しておきたい。

河本「そういえば伊藤先生とご一緒するのは久しぶりですよ？」

伊藤「そうですねえ～昔大道の道頓堀で飲んだことあったよね」

佐野「懐かしい！もう5、6年前ですよ！」

伊藤「大船では結構飲み会やるの？」

河本「年に2、3回ですかねえ～」

佐野「僕らは皆勤賞ですよ！笑 ねえタッキー（瀧本）☆」

瀧本「大船は仕事帰りにアクセス良いからちようど良いんだよ」

伊藤「ところで今日は山ちゃんは??」

河本「山田さんはまだ仕事で間に合いそうなら来るとのことですが、たぶん間に合わないと思いますね」

伊藤「やまちゃんも今や売れっ子だからなあ～」

とまあ、ありきたりな世間話から始まった。

伊藤「ところでサノシンとタッキーは同い年？」

佐野「そうですよ☆」

瀧本「サノシンともかれこれ10年近い付き合いになるよね！」

佐野「そうだねえ！最初に会ったのはお八チくらいの時だよねえ！でも伊藤先生とは15年以上の付き合いですよ！」

伊藤「あははそうそう！昔俺たちが上大岡の京急百貨店で生きものの展示イベントをやったことがあったんだけど、タガメの水槽の前でずーっと動かない子がいるって！（笑）それが当時小学生だったサノシン！（笑）」

瀧本「へえ～笑 サノシンらしいね！（笑）」
河本「そんなサノシンも今や結婚して！（笑）」
伊藤「タッキーは結婚の予定はないの？」
瀧本「いやあ～ 全然ないですよお～」
河本「彼女は？」

少々お酒が入ったところで、オジサンたちの快進撃が始まった。

瀧本「いやあ～（笑）でもサノシンも結婚したし僕もそれに影響されないわけでは…」
伊藤「そうだよ！ タッキー頑張ってよ！！」
河本「じゃあ次の飲み会までにまずは彼女をね！！」
瀧本「いやあ～ ははは…」

タジタジの若者への尋問はオジサンたちの楽しみとも言えよう。瀧本氏は次回までに大きな宿題を科せられた。

その後も話題は、伊藤氏・河本氏のご家庭やご子息の話、結婚秘話などプライベートな話で盛り上がった。そして5時間くらいは話をしていただろうか。

伊藤「でも侍従会はこうやって次世代も育ってるし、会の外でまたこうやって飲みに行ったりできるって良いよねえ☆ 今日は楽しかったなあ～」
河本「確かに！ 若者飲みもやったら？ ウチの子たちも誘ってあげてよ☆」
佐野「タッキー！ 若者飲みもやろう！」
瀧本「いいよ！ やろう☆」

さて、この日はこれで解散したが、翌々日佐野は再び瀧本氏と飲む機会があった。この日は横浜市内で活動する若者の集いであった。そこで瀧本氏は一人の若者に「出会い喫茶」なるものに誘われていた。その後、果たして瀧本氏は出会い喫茶に足を運んだのだろうか？ 科せられた宿題の答えを知りたい方は、是非次回の飲み会に出席されてはいかがでしょうか。参加希望の方はご連絡ください☆笑 (おわり)

トピックス その2

7/18(土) 第2回金沢区環境にやさしい活動表彰を受賞
環境未来都市 横浜かなざわフォーラムで佐野副代表がパネラーとして出席
7/22(水) 横浜みなみ生活クラブの観察会 佐野が担当
7/29(水) あげぼの保育園年中・年長組が侍従川でミニ水族館づくり
8/31(月) 舞岡小学校4年生に侍従川のレクチャー
9/10(木) 大道小学校侍従川クリーンアップ…雨天中止
9/14(月) 高舟台小学校5年生が侍従川下流域探検
9/15(火) 高舟台小学校5年生が侍従川中流域探検



琉球生き物紀行 ～美ら島の生き物たち～

～ リュウキュウヤマガメ ～

学名 : *Geoemyda japonica*

甲長 : 7～15 cm

分布 : 沖縄島北部、久米島、渡嘉敷島

ほぼ陸上で活動するカメで、やんばるの森が乾燥する晩夏に溪流へ涼みに来ている姿を目にします。体色は全体的にオレンジ色で若い個体ほど鮮やかです。活発な時期は梅雨と秋。この時期に好物のミミズやカタツムリを求めて林道に出てきて車に轢かれてしまう個体が多いです。国指定の天然記念物ですが、林道上での事故死、ペット目的の乱獲、伐採による生息環境の悪化で近年危機的状況にあります。

監修 : 熊井 (沖縄在住)



撮影地 : 沖縄本島国頭村 7月



日中倒木の上で日光浴



幼体

事務局だより

事務局運営委員 長橋 輝明

◆ 10月～12月の活動予定 ◆

☆ 定例クリーンアップ 10/25(日)、11/22(日)、12/27(日)

9時～12時 ちとせ園集合 ※雨天延期…翌週日曜

持ち物 : 川に入れる格好 (長靴の貸出あり)、タオル、軍手 (必要な人)、網 (使いたい人…貸出あり)、着替え (心配な人) ※川の上からの参加でも構いません

☆ 12/19(土) 冬の森たんけん

※詳細はホームページ及びメーリングリストで

■ 学生部の活動は追ってお知らせします。

会のホームページはこちら

→ <http://ji.jyukai.web.fc2.com/>

《編集後記》 今年の夏は猛暑の後は大雨と、天候不順が続きましたが、ようやく秋らしくなってきました。ホタルのピークが例年より早かったのも天候の影響でしょうか。みなさん、今のうちに秋を満喫しましょう!(MK)